

I. 異常行動調査表，小児科医へのアンケート調査表の作製，ならびに慢性疾患児の精神衛生の手引書の目次についての検討

筑波大学心身障害学系 長 畑 正 道
 静岡大学教育学部 新 井 清 三 郎
 慶応大学小児科 秋 山 泰 子
 都立成東児童保健院 石 橋 祝
 みどり学園小児病院 石 川 敬 次 郎
 日本大学小児科 有 泉 基 水
 国立特殊教育総合研究所 永 峯 博

1. 異常行動調査表，小児科医へのアンケート調査表の作製

(1) 異常行動調査表

異常行動調査表として Rutter らの Child Scale¹⁾を用いることに前年度決定したが，本年実際に用いることのできる調査用紙を印刷し作成した。

表 1 異常行動調査表（施設用）

病院（施設）名 _____									
患児氏名 _____		生年月日：昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日生							
学年（幼小中高 _____ 年）		年令 _____ 歳		カ月 _____		性別：男・女			
診断名（医師記入） _____									
（発病時期：昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日，		発病よりの経過期間： _____ 年 _____ 月）							
記入者氏名 _____		（職種： _____）		記入年月日：昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日					
受持医氏名 _____									

記 入 上 の 注 意

ご記入いただく際に以下のことにご注意下さい。

- ①については，受持医の指示により患児の日常生活をよく観察している職員が記入して下さい。
- 患児氏名，生年月日，学年，年令，診断名，発病時期，経過期間，記入者氏名，記入年月日，受持医氏名を必ず記入して下さい。
- ①にての回答は，右の記入欄のあてはまるところにまるをして下さい。
- ①については，1から26までもれなく記入して下さい。
- ①の“いいえ”については，そのことに該当しない場合のことです。
 ①の“ときどき”については，特別な指導をするほどではないが，ときどきみられる場合のことです。
 ①の“よくある”については，この問題について個別的に特別な指導をする必要があると考えられる場合のことです。

6. ②については、該当するときだけ記入して下さい。該当することがない場合には、空欄にしておいて下さい。
7. ③については、受持医が記入して下さい。
8. ④については、知能テストを行ったことがある場合、最も最近のIQとその検査名および検査年月日を記入して下さい。

① 次の項目についてお答え下さい。右の記入欄にまるをして下さい。

	項 目	い い え	と き ど き	よ く ある
1	多動で片時もじっとせず、よく動きまわる。			
2	そわそわと落ちつきがない。			
3	物をよくこわす。			
4	他の子供とよくケンカする。			
5	他の子供に嫌われる。			
6	心配性である。			
7	弧立的で自分ひとりで物事をする傾向がある。			
8	いらいらとし、すぐカッとなる。			
9	気分が沈みがちで、よく涙ぐんだりする。			
10	顔や身体の一部をピクッと動かすくせ(チック)がある。			
11	指しゃぶりをする。			
12	爪を噛むくせがある。			
13	親のいうことをきかない。			
14	注意が持続しない。			
15	こわがりで見なれないものを怖れる。			
16	よく文句をいい気むずかしい。			
17	よく嘘をいう。			
18	他の子供をいじめる。			
19	怠けて学校に行かない。			
20	些細な理由で学校を休みがちである。			
21	1度ならず物を盗んだことがある。			
22	今年になって大便や小便のおもらしをしたことがある。			
23	しばしば身体の痛み(頭痛、腹痛を含む)を訴える。			
24	この1年の間に、登校のとき泣き出したり、校舎の中に入るのを嫌がったことがある。			
25	どもったり、口ごもったりすることがある。			
26	その他の言語障害がある。(例えば)			
	合 計			

② 上記以外の問題行動がありましたら、下の欄にくわしく記入して下さい。

③ ただ今、ご記入された患児を全体的に見ると、次のどれにあてはまりますか、受持医の判断を記入して下さい。

1. 全く問題がない。
2. ほとんど問題がない。
3. 問題がある。
4. 上記の2.3.の場合、それは慢性的の病気のためと思いませんか。(はい、いいえ、わからない)

④ I Qとその検査名および検査年月日を記入して下さい。

I Q ()

I Q検査年月日 昭和 年 月 日 (テスト名)

表 2 異常行動調査表 (両親用)

学校名	
患児氏名	生年月日：昭和 年 月 日生
学年 (幼小中高 年) 年令 歳	性別：男・女
診断名 (医師記入)	
(発病時期：昭和 年 月 日, 発病よりの経過期間：年 月)	
記入者氏名 (父, 母, その他)	記入年月日：昭和 年 月 日
受持医氏名	病院 (施設) 名

記 入 上 の 注 意

ご記入いただく際に以下のことにご注意下さい。

1. (1)(2)(3)(4)の質問項目についてはお母さんなど患児の日常生活をよく知っている人が記入して下さい。
2. 患児氏名, 生年月日, 学年, 年令, 診断名, 発病時期, 経過期間, 記入者氏名, 受持医氏名を必ず記入して下さい。
3. (1)(2)(3)についての回答は右の記入欄のあてはまるところに○ (まる) をして下さい。
4. (1)(2)(3)の各項目についてはもれなく記入して下さい。
5. (2)(3)の“いいえ”については、そのことに該当しない場合のことです。
 (2)(3)の“ときどき”については特別そう心配するほどではないが、ときどきみられる場合のことです。
 (2)(3)の“よくある”については、よくみられ医師その他の専門家に相談した方がよいのではないかと考えられる場合のことです。
5. (4)については該当するときだけお母さんその他家族の方が記入して下さい。該当することがない場合には空欄にしておいて下さい。
7. (5)については受持医が記入して下さい。
8. (6)については、知能テストを行ったことがある場合最も最近のI Qとその検査名および検査年月日を医師が記入して下さい。

(1) 健康上の問題 (母親その他家族記入)

	項 目	この1年ない	年に数回	1月に1回以上	1週に数回
1.	頭痛がある				
2.	腹痛や嘔吐がある				
3.	食欲がない				
4.	夜尿あるいは昼間のおもらしがある				

	項 目	この1年ない	年に数回	1月に1回 以 上	1週に数回
5.	大便をもらす				
6.	かんしゃく発作をおこす				
7.	登校のとき泣き出したり校舎に入るのを嫌がる				
8.	怠けて学校へ行かない				
	合 計				

(2) くせ(母親その他家族記入)

	項 目	いいえ	ときどき	よくある
1.	話すときに吃る			
2.	舌がよくまわらず、正しく発音ができない (例えば)			
3.	物を盗んだことがある (例えば)			
4.	少食や過食など食事をめぐり問題がある (例えば)			
5.	ねつきが悪かったり夜中に目のさめることがある			
	合 計			

(3) 行動上の問題(母親その他家族記入)

	項 目	いいえ	ときどき	よくある
1.	多動で片時もじっとせずよく動きまわる			
2.	そわそわと落ちつきがない			
3.	物をよくこわす			
4.	他の子供とよくケンカする			
5.	他の子供に嫌われる			
6.	心配性である			
7.	孤立的で自分ひとりで物事をする傾向がある			
8.	いらいらとし、すぐカッとなる			
9.	気分が沈みがちで、よく涙ぐんだりする			
10.	顔や身体の一部をピクッと動かすくせ(チック)がある			
11.	指しゃぶりがあ			
12.	爪を噛むくせがある			
13.	親のいうことをきかない			
14.	注意が持続しない			
15.	こわがりで、見なれないものを怖れる			
16.	よく文句をいい気むずかしい			

	項 目	い い え	ときどき	よくある
17.	よく嘘をいう			
18.	他の子供をいじめる			
	合 計			

総計 _____

(4) 上記以外の問題行動がありましたら、下の欄にくわしく記入して下さい。(母親その他家族記入)

(5) ただ今、ご記入された患児を全体的に見ると、次のどれにあてはまりますか、受持医の判断を記入して下さい。

(医師記入)

1. 全く問題がない。
2. ほとんど問題がない。
3. 問題がある。
4. 上記2.3.の場合、それは慢性の病気のためと思いますか。(はい、いいえ、わからない)

(6) I Qとその検査名および検査年月日を記入して下さい。(医師記入)

I Q ()

I Q検査年月日 昭和 年 月 日 (テスト名)

表 3 異常行動調査表 (教師用)

学校名 _____

児童氏名 _____ 生年月日 昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日生

学年 _____ 年令 _____ 才 _____ カ月 性別 男・女

記入者氏名 _____ 記入年月日 昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

診断名: _____

記 入 上 の 注 意

ご記入いただく際に以下のことにご注意下さい。

1. この質問紙は必ず、担任の先生が記入して下さい。
2. 児童氏名、生年月日、学年、年令、記入者氏名、記入年月日を必ず記入して下さい。
3. ①についての回答は、右の記入欄のあてはまるところにまるをして下さい。
4. ①については、1から26までもれなく記入して下さい。
5. ①の“いいえ”については、そのことに該当しない場合のことです。
 - ①の“ときどき”については、専門機関に相談するなど特別な指導をするほどではないが、ときどきみられる場合のことです。
 - ①の“よくある”については、この問題について個別的に特別な指導をする必要があると考えられる場合のことです。
6. ②については、該当するときだけ記入して下さい。該当することがない場合には、空欄にしておいて下さい。
7. ③については、必ず記入して下さい。
8. ④については、入学後、知能テストを行ったことがある場合、最も最近のI Qとその検査名および検査年月日を記入して下さい。

① 次の項目についてお答え下さい。右の記入欄にまるをして下さい。

	項 目	いいえ	ときどき	よくある
1	多動で片時もじっとせず、よく動きまわる。			
2	そわそわと落ちつきがない。			
3	物をよくこわす。			
4	他の子供とよくケンカする。			
5	他の子供に嫌われる。			
6	心配性である。			
7	孤立的で自分ひとりで物事をする傾向がある。			
8	いらいらとし、すぐカッとなる。			
9	気分が沈みがちで、よく涙ぐんだりする。			
10	顔や身体の一部をピクッと動かすくせ(チック)がある。			
11	指しゃぶりをする。			
12	爪を噛むクセがある。			
13	親のいうことをきかない。			
14	注意が持続しない。			
15	こわがりで見なれないものを怖れる。			
16	よく文句をいい気むづかしい。			
17	よく嘘をいう。			
18	他の子供をいじめる。			
19	怠けて学校に行かない。			
20	些細な理由で学校を休みがちである。			
21	1度ならず物を盗んだことがある。			
22	今年になって学校で大便や小便のおもらしをしたことがある。			
23	しばしば身体の痛み(頭痛、腹痛を含む)を訴える。			
24	今年になって学校に着くと涙ぐんだり、校舎の中に入るのを嫌がったことがある。			
25	どもったり、口ごもったりすることがある。			
26	その他の言語障害がある。			
	合 計			

② 上記以外の問題行動がありましたら、下の欄にくわしく記入して下さい。

③ ただ今、ご記入された児童を全体的に見ると、次のどれにあてはまりますか。

1. 全く問題がない。
2. ほとんど問題がない。
3. 問題がある。

④ IQとその検査名および検査年月日を記入して下さい。

IQ ()

IQ検査年月日 昭和 年 月 日 (テスト名)

表4 慢性疾患児の診療についての小児科医へのアンケート調査表

まことに御手数をおかけ致しますが、次の各項目についてお答え下さい。無記名で結構です。

1. 現在主として診療にあたってられる機関は次のうちどこですか。“その他”の場合はその機関の種別を記入してください。(大学病院小児科, 小児病院小児内科, 国立療養所, 虚弱児施設, その他)。
2. 小児科医としての経験年数は()年です。
3. 小児科医としての専門領域()。
4. 慢性疾患児の病歴聴取にあたり、子どもの日常生活の状態や親子関係について必ずききますか(はい、ときどき、いいえ)。
5. 入院している慢性疾患児に対して診察だけでなく、病室やプレールームなどで日常よく話し合ったり、遊んだりしますか(はい、ときどき、いいえ)。
6. 親や子どもの面接技法の理論や実地について指導をうけたことがありますか(はい、少し、いいえ)。
7. 受持っている慢性疾患児の問題行動で困ったとき、身近かに相談できる専門家がいますか。
いいえ
はい……それは医師(専門:)ですか、他の職種(職種名:)ですか。
8. これまで慢性疾患児でなくとも、子どもの発達テストや知能テストを自分で行ったことがありますか。
いいえ
はい……それはどんなテストですか(テスト名:)
9. 慢性疾患児の精神衛生についての御意見をお書き下さい。
病院(施設)名 _____

異常行動調査表は、対象児のいる場にあわせて、施設用、両親用、学校用、の3種類とした。その実物は表1、表2、表3、にかかげた。

施設用は、虚弱児施設や国立療養所内慢性疾患児病棟で用いることを念頭において作製した。チェックをするのは施設の保母、児童指導員、看護婦などであるが、必ず主治医が目を通し、全般的な判断を行うこととした。

両親用は、主として大学病院小児科、あるいは総合病院小児科の外来もしくは入院している子どもを対象としている。こういった病院では入院は比較的短期間であるので、入院児についても両親がチェックすることを原則とした。入院が長期の場合は看護婦にチェックしてもらってもよい。いずれの場合も主治医が全般的な判断を行うことにした。たゞ、両親がチェックした場合、親によりかなり子どもの見方が異なることが予想される。そこで対照群をおくこととし、病院の外来に通って来ている急性

疾患児について、この調査表でチェックしてもらうこととした。

教師用は病弱・虚弱養護学校の教師にチェックしてもらおう。同じ慢性疾患児をみても、施設や病院の職員と異なった観点からチェックされることが考えられるからである。

本研究で調査する慢性疾患は、比較的数の多い気管支喘息、腎炎・ネフローゼ、心疾患を主とし、場合によっては進行性筋ジストロフィー症やてんかんも含めることとした。また、この調査表の性格から対象児の年齢は3歳～12歳、つまり、幼児および学童とした。Rutter²⁾もこのChild Scaleは7～13歳用として作製している。3～5歳の幼児を含めたのは、項目を検討してみて、3～5歳の幼児でもとくに不適当と思われるものがなかったからである。また、自由記述的な欄も設けてあるので、このチェック・リストでもれた分も充分補うことができ

るようになっていたので、研究をすすめて行った上で、さらに検討して行く予定である。

(2) 小児科医へのアンケート調査用紙(表4)

小児科医の慢性疾患児の精神衛生に対する関心の度合を明らかにすることを目的とした調査用紙である。また、精神衛生上の問題についてどのように対処しているかといった点もあわせて調査しようとするものである。小児科医の立場として、とかく疾患そのものにだけ目が向けられがちであるが、疾患をもった子どもにも常に関心が払われなければならない。しかし実際問題として日常の診療や研究、教育に多忙でなかなかそこまで目がむけられないのが現実である。また熱意はあっても身近かに指導者や相談相手がいないといったこともある。その他、臨床心理士や小児精神科医との協力のあり方をどうすべきかという問題もある。こういったことを含めて慢性疾患児の精神衛生をめぐる問題点について自由に意見を書いてもらえるような調査用紙とした。

慢性疾患児の精神衛生上とくに親の問題が重要である。しかし、この問題はこういったアンケート調査によって明らかにすることは極めてむづかしい。また10歳以上の年長の学童では、親への働きかけもさることながら、本人自身への働きかけの方が重要である。したがって、この研究においては、もっぱら子どもと治療に当る小児科医に焦点をしばってみた。また、現在の慢性疾患児の精神衛生を考えるにあたっては、現時点において医療体制そのものが極めて貧しい状態にある。こういったことか

ら、まず自らのあり方をふりかえってみることの方がより重要であると考えた。とかく子どもの問題は親の責任とされがちであるが、慢性疾患児の総合的包括的医療の体制を確立することの方が先決の問題である。こういった問題意識もあって、この研究では親の問題を正面からとり上げないこととした。しかし、両親用の異常行動調査表では親の意見の記述欄もあるので、子どもをめぐっての悩みが自ら浮びでてくることが予想される。

(3) 慢性疾患児の精神衛生の手引書の項目の作製について

この手引書を来年度につくり上げるについては、今年度より計画をつくる必要がある。各論的なことについては調査研究が終った段階で補充することにして、次のような構成で手引書をまとめることとした。しかし、今後なお検討を加えながら、完成させたいと考えている。

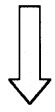
1. 序
2. 子どもの精神発達の理解
3. 子どもの評価および精神衛生的診断のすすめ方
4. 親および子どもに対する指導・治療
 - (1) 親の指導
 - (2) 子どもの指導・治療
5. 各種の慢性疾患の精神衛生
 - (1) 気管支喘息
 - (2) 腎炎・ネフローゼ
 - (3) 心疾患
 - (4) その他

II. 小学校児童に対する Child Scale B (Rutter and Graham, 1970) による異常行動の調査

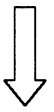
筑波大学心身障害学系 長 畑 正 道
柴 田 浩 直

昨年度の研究において、慢性疾患児の異常行動の調査に Rutter and graham¹⁾ の Child Scale を用いることが決定された。この Child Scale にはA(両親用)とB(教師用)とがあるが、項目としては共通することが多い。この Child Scale を用いて正常児ではどの程度異常行動の頻度がみられるのか、また合計点でどのくらいから異常と判定してよいのかを検討することがまづ必

要である。しかし、かかる研究においては、比較的調査が容易な学校での教師による評価が最も適当であると考えられる。そこで、Child Scale B を用いて小学生を対象として検討してみることにした。なお、教師間の評価の差がどのくらいであるかを見るために1クラス2名の担任のいる養護学校(精神薄弱)もあわせて調査した。しかし、本報告では主として普通小学校の成績をとりあ



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



.異常行動調査表,小児科医へのアンケート調査表の作製,ならびに慢性疾患児の精神衛生の手引書の目次についての検討